

# 2019年度事業報告

2019年1月1日～2019年12月31日



出前授業「人もシマフクロウも喜ぶ地域づくり学習」から生まれた  
河畔林再生活動

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

## 事業の成果

2019年度は、保護保全事業と普及啓発事業の両面から、生物多様性保全、地域自然循環の構築、希少種との共存に繋がる取り組みを推進しました。

保護・保全・支援の継続事業では、各種調査を適期に実施、給餌のモニタリング調査や給餌は通年実施し、保護に活かすデータや新たな知見を蓄積しました。新たな展開として、地域の重要環境の保全に向けて、北海道、浜中町、漁協、当 NPO で協議が進み協働による森林環境の再生に取り組んで行く方向で合意しました。普及・啓発事業の新たな取組では、持続可能な発展のための教育(ESD)実践団体と協働による出前授業を開始し、持続可能な社会の担い手となる子どもたちの生きる力に寄与し当ミッションを推進しました。

ホームページやパンフレット等広報の面においても、生物多様性保全、地域自然循環の構築、希少種との共存に繋がる具体的な目標を文書や図で表現し直し、SDGs と当事業との関わりや団体 PR 動画などを新たに作成するなど広報の最適化に取り組み、今後のさらなる協働への準備を行いました。

運営面では、組織の持続可能性を踏まえ運営方法の改善に対する取り組みは 30%程度に留まり、9月に定款の変更を終え、10月から会計業務の改善に着手し始めました。

2019年度は、各種メディアにおける発信が活発な年となり支援の輪が全国に広がりました。また昨今の気象危機も伴い、生物多様性保全や SDGs(持続可能な発展の為の開発目標)などの言葉が社会化されてきたことにより、当 NPO が設立当初から掲げてきた「地域の人達の手による持続可能な環境の保全により希少種も地域社会、経済も担保されていく」ことが、関係機関や住民等へ理解関心が進み、具体的行動へと進んだ年になりました。

# 目次

## 事業報告

### I シマフクロウの保護・保全・支援する事業

- 1 調査(継続事業)
  - 1) 給餌のモニタリング調査
  - 2) 繁殖確認調査
  - 3) 生息確認調査
- 2 補助給餌(継続事業)
- 3 生息環境の保全
  - 1) 植林地のメンテナンス(継続事業)
  - 2) 重要環境の持続的な保全に向けた取組み
    - a. SDGs に基づいた水源涵養林保全に向けた取組み
    - b. 浜中町の持続的な環境保全に向けた取組み

### II 普及・啓発事業

- 1 シマフクロウを生態系の中心に据えた環境教育事業
  - (1)出前授業(協働事業) 「人もシマフクロウも喜ぶ地域づくり学習」(新規事業)
  - (2)研修等の受託
- 2 シマフクロウの保護・保全を支援する人材育成事業  
活動報告会の開催
- 3 ホームページ、各種印刷物等による PR に係る事業
  - (1)ホームページ、SNS による発信
  - (2)イベントを通じた発信
  - (3)各種印刷物による発信
  - (4)執筆による発信
  - (5)メディアによる発信
- 4 その他、上記各号に付随する事業
  - (1)組織基盤整備
  - (2)運営に係る取組み
  - (3)その他の事項



	<p>(3) 生息確認調査</p> <p>住民による鳴き声情報があった釧路総合振興局管内エリアで、踏査や音声確認調査を行った。シマフクロウの痕跡は無かったが、川底は礫で、河畔林の幅や樹高が比較的残されているエリアであった。</p> <p>このほか、ヤマベの生息やサケマス遡上がある支流で、以前からシマフクロウの単独個体やオジロワシ、タンチョウの痕跡が確認されているエリアで生息確認調査を適期に実施し 2020 年 1 月以降も調査を続行する。</p>		<p>釧路総合振興局管内 2 か所</p> <p>11 月中の 4 日</p>	<p>1</p> <p>釧路総合振興局管内の本種単独個体</p>	<p>214</p>
<p>〃</p>	<p>2 補助給餌(継続取組)</p> <p>おさかな寄付で活魚 330kg10 回購入し給餌池に放流し、ほぼ毎日つがいの飛来をモニタリグ調査で確認した。</p> <p>秋 10 月中旬以降は給餌池以外で捕食量が増える時期は給餌場での捕食は減り滞在時間も短めであった。法人設立の 2008 年から 2019 年 12 月までの給餌量は計 91 回 2740kg となり、巣立ったヒナは十数羽以上になった。</p>		<p>釧路総合振興局管内 1 か所</p> <p>1 月～12 月</p> <p>計 10 回</p>	<p>2</p> <p>釧路総合振興局管内に生息する本種のつがい</p>	<p>556</p>
<p>〃</p>	<p>3 生息環境の保全</p> <p>(1) 植林地メンテナンス</p> <p>雪解け後、電気柵の一部が鹿に倒壊され植樹した樹木が食害に遭った。11 月、電気柵や電柱の整備、樹木へ忌避材を塗布し来春の鹿食害に備えた。実施にあたり、NPO 法人えんの森、当サポーターに協力をいただいた。</p>		<p>釧路総合振興局管内 1 箇所</p> <p>5/25, 10/15, 11/23</p>	<p>12</p> <p>釧路総合振興局管内に生息する本種及び多様生物、浜中町住民</p>	<p>135</p>

	<p>(2) 重要環境の持続的な保全に向けた取組み</p> <p>a. SDGs に基づいた水源涵養林保全に向けた取組み</p> <p>水辺や斜面・水源林、長期施業が行なわれていない道有林の林班の現地下見を道有林、浜中町と行った。近年の爆弾低気圧による倒木、鹿食害による河畔の広葉樹の幼樹の減少などがこの5年間で増加し、川の水位低下、出現生物の減少等が顕著になり、将来さらに生物多様性の低下が懸念されることを共有した。さらに川下で内水面漁業を行う漁協からも将来の生物生産への懸念が高まっている状況があり、北海道、漁協、町、当NPOで課題を共有し、概ね各主体で、道の公約ともなる「生物多様性保全の推進」に基づく森林整備を検討していく方向で合意した。</p> <p>b. 浜中町の持続的な環境保全に向けた取組み</p> <p>上記の課題の共有プロセスを経て、浜中町農林課による「生物多様性の森づくり」を令和2年から開始する計画を策定するに至った。12月、現地下見に同行した。</p>	<p>釧路総合振興局内 浜中町</p> <p>10月、12月</p>	<p>10</p>	<p>北海道、浜中町、町一次産業者、本種及び多様生物、他不特定多数</p>	
		<p>浜中町</p> <p>10月、12月</p>	<p>5</p>	<p>浜中町及び周辺市町村、本種及び多様生物</p>	

**普及・啓発事業**

<p>シマフクロウを通じた環境教育事業</p>	<p>(1) 【出前授業】 新規</p> <p>2019年は新たな試みとして「シマフクロウも人も喜ぶ地域づくり学習」を認定NPO法人アサザ基金と協働で開始し4月から11月まで実施した。シマフクロウをバロメーターに身近な生きものや環境から地域特性を学び直し、地域の森から海までの大きな繋がりの大切さを学び、同時にそれらが人の営みや産業を支える基盤であることを生徒達と学ぶことが出来た。成果を実現する取り組みとして、最後に授業で訪れた川沿いに植樹を行い、河畔林再生活動の一步がこの学習から始まった。</p>	 	<p>釧路総合振興局管内 浜中町</p> <p>4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月の期間のべ13回実施</p> <p>浜中町立茶内小学校、浜中町立霧多布小学校</p>	<p>生徒 32 関係 者 25</p>	<p>浜中町内の学校生徒及び教員、住民、関係機関、周辺市町村の関係機関等</p>	<p>637</p>
-------------------------	---	--	--	----------------------------------	--	------------

<p>実施にあたり、浜中町と浜中町教育委員会に後援を、地域の方々に授業に参画いただいた。</p> <p>浜中町の酪農業者、漁業者、役場関係者、農協、漁協、乳牛メーカー、ケーキ職人、釧路総合振興局森林室関係者など、関係者や父兄の方々にもこの学習に関心を持っていただいた。</p>		<p>浜中町教育委員会 6月</p>	<p>3</p>	<p>浜中町内小中高校生徒、浜中町</p>	
<p>この学習を小・中・高校まで繋げていく系統的な学習案を飯島講師が作成し、学校や教育委員会に当 NPO から提案を行った。</p>		<p>浜中町内山林 6月</p>	<p>6</p>	<p>浜中町内教員</p>	
<p>(2) 【研修等の受託】</p> <p>・教員研修講師 受託：6月、浜中町の教員研修「総合的な学習部会」の講師依頼を受け、浜中町の森や森づくりについて、当活動について、野外を案内し紹介した。</p>		<p>浜中町内山林 6月</p>	<p>4</p>	<p>浜中町立浜中中学校</p>	
<p>・総合的な学習への対応： 10月浜中町立浜中中学校の総合的な学習「地域の職場体験」にて生徒から取材を受けシマフクロウや保護活動、環境保全について紹介した。</p>		<p>浜中町教育委員会 3月</p>	<p>2</p>	<p>浜中町内教育関係機関及び小中高校生徒</p>	
<p>【ESD 研修会開催の提案】</p>		<p>浜中町 11月</p>	<p>8</p>	<p>浜中町内学校生徒、浜中町</p>	
<p>根室管内で先駆的に ESD に取り組んできた羅臼町教育委員会の金澤裕司環境教育主幹を講師に、浜中町の教職員向け ESD 研修会の開催に向けて、浜中町教育委員会と協議していたが時期検討で見送りとなった。</p>					
<p>その他</p>					
<p>【次年度に向けた授業提案】 出前授業を未実施校に向けて 2020 年の実施の検討の提案を行なった。</p>					

シマフクロウの保護・保全を支援する人材育成事業	<p>(1) 【活動報告会の開催】</p> <p>7月、東京にて活動報告会「シマフクロウ調査と地域学習」を地球環境パートナーシッププラザで開催し、シマフクロウの生態や当活動の取り組み、観察のルールマナー等について野鳥愛好家等参加者27人に紹介した。</p> 	東京 7/23	2	東京都民	0
ホームページ、各種印刷物等によるPRに係る事業	<p>(1) 【ホームページやSNSによる広報】</p> <p>寄付・サポーター募集、企業CSRとの共同として事業型連動寄付を引続き実施した。</p> <p>【ウェブサイト一部リニューアル】</p> <p>広報最適化事業として、ウェブサイトの一部改修をみんなのさいわいのプロボノチームと協業し、PR動画をはじめ新ページの作成や既存ページの改定に取り組み12/25に公開した。実施にあたり株式会社リコー社会貢献クラブFreeWill寄付金で実施した。</p>  <p>(2) 【イベントへの参加】</p> <p>6月、浜中町にて「英語 de アートプログラム」が支援者により開催され当NPOが後援をした。「シマフクロウと環境」をテーマに、スウェーデン出身者が講師となり浜中町の英語教室教師、昨年のアートプロジェクト企画アーティストらの協働でモビールを作成した。参加した町内児童10名は参加費をシマフクロウ保護に役立てるため自分で使い道を決めて寄付を行なった。</p> 	<p>全国、海外 通年</p> <p>東京、浜中町 7月～12月</p> <p>浜中町 6/16</p> <p>東京都、浜中町 8月～12月</p>	<p>3</p> <p>7</p> <p>18</p> <p>4</p>	<p>不特定多数</p> <p>不特定多数</p> <p>浜中町内外の親子</p> <p>不特定多数</p>	<p>342</p>

	<p>(3) 【各種印刷物の制作・配布】          広報最適化事業で団体パンフレットのリニューアルに取組み 1200 部増刷した。</p> <p>【会報作成・発行】          当活動やシマフクロウ、その保護の取組みなどを紹介するサポーター向け会報を隔月発行し、8月に100号目を迎えた。</p> <p>(4) 【メディアによる広報】          室蘭民報社、日本経済新聞社、釧路新聞社、東京 FM ラジオ、毎日新聞社、読売新聞社にて、代表理事や当団体が取材を受け取組みが紹介された。</p> <p>【執筆】          BIRDER6月号「絶滅の危機に立たされた鳥たち」シマフクロウの頁で原稿依頼を受け代表菅野が寄稿した。「シマフクロウのすむ森を守るために～皆で知って皆で守る、協働の輪～」2頁掲載された。</p> <p>【その他】          「産経子どもニュース 育て子どもたち」に当活動が紹介され、全国の学校へチラシが配布された。</p>	 	<p>1月～12月の偶数月          全国</p> <p>全国          7月、9月、10月、          11月、12月</p> <p>7月          東京都、浜中町</p> <p>9/15</p>	<p>4</p> <p>10</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>当サポーター及び          寄付等支援者約          400名</p> <p>不特定多数</p> <p>野鳥や環境に関心          の高い不特定多数</p> <p>日本全国の学校</p>	
<p>その他、上記各号に付随する事業</p>	<p>(1) 【組織基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなのさいわいのプロボノチームと協業し、「企業向け説明資料キッドの作成」に取り組んだ。完成した資料を企業支援活動に役立て、法人2社に新規支援頂いた。</li> <li>・定款の変更：「公告の方法」改訂に伴い他の事項も見直し、北海道より認証され9月6日から定款を変更した。</li> </ul>	 	<p>東京都、神奈川県、          浜中町</p> <p>1月～6月</p> <p>浜中町、釧路市          2月～8月</p>	<p>6</p> <p>8</p>	<p>環境分野への取り組みを行う道内外の企業等</p> <p>不特定多数</p>	

<p>(2) 【組織運営にかかる取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会の定期開催(テレビ会議)： 5月7月開催を試みたが理事各位の都合が合わず開催できず中期計画の検討等ができなかった。 事務局で中期計画案の整理を行った。持続可能な環境・社会・経済に基づいた発展目標に基づいて、ビジョンとそれを達成するためのミッションを考えた。</li> <li>・支援者管理： 次年度から専用ソフトを使い担当者をつけて行うことにした。</li> <li>・会計管理： 認定NPOを目指し、会計管理について2019年決算から会計事務所と連携して行うことにした。</li> </ul>	<p>浜中町、別海町、 埼玉県、神奈川県 2月、12月</p> <p>浜中町</p> <p>浜中町、東京都 9月-12月</p>	<p>7</p> <p>2</p> <p>4</p>	<p>シマフクロウ・エイド理事及び社員</p>	
<p>(3) 【その他の事項】</p> <p>a. 【受賞】</p> <p>シマフクロウ・エイド代表菅野正巳と事務局長菅野直子が社会貢献支援財団の第52回社会貢献者賞を受賞した。1992年から代表菅野が開始したシマフクロウの調査や保護活動、2008年にはNPO法人シマフクロウ・エイドを設立し、現在も保護保全活動を続け、次世代を担う子どもたちへの普及教育活動を続けている27年間の一連の取組みを評価して頂いた。</p> <p>b. 【取材等協力】</p> <p>北海道のウェブサイト「生物多様性の保全」のページに、2019年3月新たに「シマフクロウの森の再生」が公開され、関連する民間の取組みとして当NPOの活動が紹介された。公開にあたり、該当ページトップ写真の提供を行った。</p>	<p>東京都 7/22</p> <p>浜中町、札幌市 3/28</p>	<p>2</p> <p>2</p>	<p>不特定多数</p> <p>不特定多数</p>	 

<p>・2月、東京都内の付属中学校にて2018年「私の研究」発表会が校内にて開催され1000人が聴講した。2学年代表に選ばれた「シマフクロウについて」の研究を発表した生徒は、当NPOが現地取材や文書校正等で協力を行った。</p>		<p>昭和女子大学付属 昭和中学校・高等 学校 2/22</p>	<p>5</p>	<p>生徒教員約 1000 人</p>	
<p>・2月、道東SDGs協議会に作成された冊子にて、浜中町、別海町、中標津町のSDGsに関する取り組みが掲載され、当NPOの環境教育事業も紹介された。</p>		<p>中標津町、根室市 3月</p>	<p>4</p>	<p>釧路総合振興局管 内、根室振興局管 内、北海道</p>	
<p>・7月から、アサヒ飲料株式会社の寄付付き自動販売機を通じた当活動への寄付支援が始まった。</p>		<p>北海道 7月</p>	<p>4</p>	<p>不特定多数</p>	
<p>・10月、任意団体 WhyNot...Club 主催で第6回シマフクロウエイドチャリティイベントを開催いただき参加費の一部を活魚代として寄付いただいた。</p>		<p>北海道鶴居村 10/6</p>	<p>25</p>	<p>不特定多数</p>	
<p>・株式会社アトリエ・モリヒコ フリーペーパー12月号にて、1%ForThePlanet 寄付先団体代表として当活動が紹介された。</p>		<p>札幌市 12月</p>	<p></p>	<p>不特定多数</p>	

以上

## 特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

〒088-1364 北海道厚岸郡浜中町茶内若葉 2-36

TEL・FAX 0153-65-2183

Email office@fishowlaid.jp

URL <https://fishowlaid.jp/>